

アルファ・ウイン 企業調査レポート

デジタルメディアプロフェッショナル (3652 東証マザーズ) 発行日：2021/11/29

アルファ・ウイン 調査部
<http://www.awincap.com/>

● 決算速報

◆ グラフィックス技術に特化した研究開発型ファブレス半導体ベンダー

- ・デジタルメディアプロフェッショナル（以下、同社）は、同社が独自に開発したグラフィックス技術をライセンス供与、またはこれを組み込んだ LSI 製品の生産を外部委託し販売する研究開発型ファブレス半導体ベンダーである。近年では人工知能（AI）関連の受託開発にも注力している。
- ・2021年5月に数値目標を伴った中期経営計画を公表した。2024/3期の目標として、売上高2,500百万円（2021/3期比2.5倍）、営業利益200百万円（2021/3期は425百万円の損失）を掲げている。

◆ 2022年3月期第2四半期累計業績

- ・同社の2022/3期第2四半期累計（以下、Q2）業績は、売上高690百万円（前年同期比29.5%増）、営業損失109百万円（前年同期損失額191百万円）、経常損失109百万円（同155百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失110百万円（同156百万円の損失）であった。
- ・事業別売上高では、IPコアライセンス事業は67百万円（前年同期比9.8%増）。デジタルスチルカメラ等のデジタル機器向けランニングロイヤリティ収入、安全運転支援分野及びロボティクス分野での新規ライセンス収入、前2021/3期より計上を開始したリカーリング収益も寄与した。
- ・製品事業は502百万円（前年同期比31.1%増）。パチンコ・パチスロ向け画像処理プロセッサ「RS1」に加え、ドローン向けカメラモジュールも売上計上した。
- ・プロフェッショナルサービス事業は120百万円（前年同期比37.9%増）。国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下、NEDO）向け受託収入は剥落したものの、安全運転支援分野及びロボティクス分野向けのAI受託開発で大幅増収となった。
- ・分野別売上高では、安全運転支援分野は、新規顧客向けのプロフェッショナルサービスでの案件スタートも貢献し45百万円（前年同期比4.5倍）、ロボティクス分野はヤマハ発動機向けのAIに絡む協業の活発化もあり106百万円（同73.8%増）、アミューズメント分野は「RS1」の量産出荷売上の計上により499百万円（同30.6%増）、その他分野はNEDOからの受託収入が剥落し38百万円（同50.6%減）であった。
- ・売上総利益は237百万円（前年同期比47.0%増）と増収率を大きく上回る増加であった。また、販売費及び一般管理費（以下、販管費）は、研究開発費が92百万円（同24.6%減）と減少したこともあり前年同期比1.7%減の347百万円となった。売上総利益の拡大、販管費の減少により営業損失額は109百万円と前年同期の191百万円の損失から縮小、82百万円の改善となった。
- ・経常損失の改善額は46百万円と営業損失の改善幅より縮小した。NEDO向け助成金収入（37百万円）が無くなったこと等から、営業外収支が36百万円のプラスから0.9百万円のプラスへと減少したためである。

◆ 自己資本比率は高い水準を維持

- ・Q2業績で親会社株主に帰属する四半期純損失を計上したが、Q2末の手元流動性（現金及び預金と有価証券の合計額）は2,250百万円と総資産の65.6%を占め、自己資本比率も91.5%と依然高い水準を維持している。

ショートレポート

1/4

アルファ・ウイン企業調査レポート(以下、本レポート)は、掲載企業のご依頼によりアルファ・ウイン・キャピタル株式会社(以下、弊社)が企業内容の説明を目的に作成したもので、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。弊社は、本レポートの配信に関して閲覧した投資家の皆様の本レポートを利用したこと、又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。最終投資判断は投資家ご自身においてなされなければならず、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家の皆様にあります。また、本件に関する知的所有権は弊社に帰属し、許可なく複製、転写、引用、翻訳等を行うことを禁じます。

◆ 2022年3月期業績予想

- ・ 同社は2022/3期業績予想を期初予想から増額修正し、売上高1,650百万円（前期比63.4%増、期初予想1,500百万円）、営業損失200百万円（前期は425百万円の損失、同250百万円の損失）、経常損失200百万円（同361百万円の損失、同250百万円の損失）、親会社株主に帰属する当期純損失202百万円（同364百万円の損失、同252百万円の損失）である。配当予想は期初より無配継続としている。
- ・ 会社側の通期予想の増額修正は、アミューズメント機器向けの画像処理プロセッサ「RS1」の大型受注獲得(2021年8月11日リリース)により、RS1の2022/3期通期売上高を期初予想840百万円から1,150百万円予想に増額修正したこととQ2実績を踏まえたものである。RS1の通期売上高予想を310百万円増額修正したものの、全体の通期売上高予想を150百万円の増額修正に留めた理由は、安全運転支援分野やロボティクス分野の一部事業で従来発表予想を下回る見込みを織り込んだためである。
- ・ なお、同社は今回の業績予想修正を踏まえた分野別売上高の予想は開示していない。因みに、今回の業績修正で期初予想を下回る定性判断を示した安全運転支援分野とロボティクス分野の期初予想売上高は、安全運転支援分野183百万円（前期比3.7倍）、ロボティクス分野374百万円（同2.3倍）となっているが、下方修正額はロボティクス分野の方が大きいようである。

◆ アルファ・ウイン調査部の業績予想

- ・ アルファ・ウイン調査部（以下、当調査部）の2022/3期連結業績予想も、同社予想並みに増額修正する。事業別売上高予想については、IPコアライセンス事業は175百万円（前期比21.5%増、前回予想210百万円）、製品事業は1,210百万円（同83.9%増、同910百万円）、プロフェッショナルサービス事業は265百万円（同28.6%増、同380百万円）とした。
- ・ IPコアライセンス事業、及びプロフェッショナルサービス売上高予想の減額修正は、Q2実績を踏まえたものである。半導体不足の影響が様々な業界に及んでいる現在、同社顧客でも半導体不足に起因する機器の生産数量減少が生じており同社のランニングロイヤリティが期初予想を下回る見込みであること、顧客からの問い合わせは増加傾向ながら案件数や案件規模が期初の期待値に達していないこと、等を修正予想に反映させた。
- ・ 全社ベースでは売上高予想を増額修正したが、その主因が比較的採算性の低い製品事業の増額であるため、営業損失予想額の改善幅は小幅となっている。
- ・ 当調査部の2023/3期業績予想は、2022/3期業績予想を踏まえて若干修正する。売上高は従前予想を踏襲するものの事業別売上高予想を修正、売上ミックスの変化を映し営業利益以下を減額修正する。製品別売上高予想については、IPコアライセンス事業を300百万円（前期比71.4%増、前回予想350百万円）、製品事業を1,300百万円（同7.4%増、同1,200百万円）、プロフェッショナルサービス事業を400百万円（同50.9%増、同450百万円）とした。なお、2024/3期業績予想は、次回発行予定のフルレポートにて掲載予定である。

◆ 協働ロボット事業の展開

- ・ 同社がターゲットとしているロボティクス分野の主たる市場は、ロボティックビークルと協働ロボットである。そのなか、協働ロボットにおいて新たな、しかも注目すべき展開があった。同社が資本参加し国内独占販売権を取得している米Cambrian社のビジョンシステム（カメラとAIが主体となり作業するアーム等の機器を動かすシステム）が、協働ロボットで世界シェア50%程度と言われるユニバーサルロボット（デンマーク本社、東京支店は東京都港区）のUR+製品に認証されたことであり、今夏以降、引合いが急増している模様である。
- ・ なお、日本国内では工作機械に代表される有力なロボットメーカーが多数存在しているが、その主力製品は眼を持たないFA（生産工程の自動化を図るシステムの総称）ファーストのロボットである。一方、

米 Cambrian 社が協働ロボット向けに提供するシステムはビジョンファーストと言え、両者は棲み分け可能な関係にあると考えられる。

- FA ファーストのロボットは、システムのプログラミング設定も含め生産ライン構築にコストと時間がかかるものの、無人での大量生産に向いている。他方、協働ロボットは工員が監視する必要があるものの、生産ライン構築にコストと時間が比較的にかからず、多品種生産に向いている。同社によれば、協働ロボットの世界出荷台数は 2020 年から 2024 年にかけて年率 21%で成長する見通しであり、今後の同社の取組みに注目したい。

【 3652 デジタルメディアプロフェッショナル 業種：情報・通信業 】 図表 A

決算期		売上高	前期比	営業利益	前期比	経常利益	前期比	純利益	前期比	EPS	BPS	配当金
		(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(円)	(円)	(円)
2020/3	通期	1,328	22.2	82	185.6	85	155.4	65	86.0	21.21	1,131.88	0.0
2021/3	通期	1,009	-24.0	-425	-	-361	-	-364	-	-116.03	1,032.07	0.0
2022/3	通期CE	1,650	63.4	-200	-	-200	-	-202	-	-64.16	-	0.0
2022/3	通期E	1,650	63.4	-200	-	-200	-	-202	-	-64.16	967.93	0.0
2023/3	通期E	2,000	21.2	10	-	10	-	8	-	2.38	970.31	0.0
2021/3	Q1	229	275.0	-114	-	-93	-	-93	-	-29.95	-	-
2021/3	Q2	533	81.8	-191	-	-155	-	-156	-	-49.84	-	0.0
2022/3	Q1	250	9.2	-95	-	-95	-	-96	-	-30.60	-	-
2022/3	Q2	690	29.5	-109	-	-109	-	-110	-	-34.95	-	0.0

(注) CE : 会社予想、E : アルファ・ウイン調査部予想

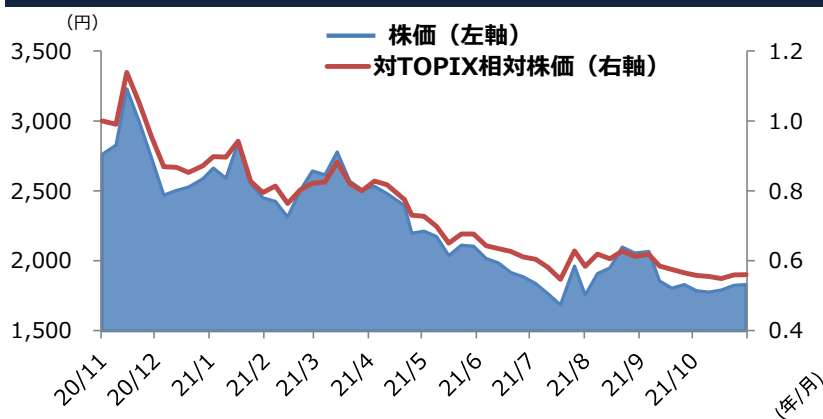
2020/3期迄単体決算、2021/3期以降連結決算、Q2は累計期間、2021/3期の前期（前年同期）比は前期（前年同期）単体比

【 株価・バリュエーション指標：3652 デジタルメディアプロフェッショナル 】 図表 B

項目	2021/11/19	項目	PER (倍)	PBR (倍)	配当利回り	配当性向
株価 (円)	1,830	前期実績	-	1.8	-	-
発行済株式数 (千株)	3,152	今期予想	-	1.9	-	-
時価総額 (百万円)	5,768	来期予想	768.4	1.9	-	-
潜在株式数 (千株)	0	前期末自己資本比率		93.5%	前期ROE	-22.4%

(注) 予想はアルファ・ウイン調査部予想

【 株価チャート（週末値）3652 デジタルメディアプロフェッショナル 】 図表 C



(注) 2020年11月第3週～2021年11月第3週

【パフォーマンス】		
期間	リターン	対TOPIX
1か月	3.1%	0.9%
3か月	-4.8%	-9.1%
6か月	-12.5%	-18.8%
12か月	-45.0%	-61.5%

(注) 月末値が基本、直近1か月は10/31と11/19との比較

ディスクレマー

アルファ・ウイン企業調査レポート（以下、本レポート）は、掲載企業のご依頼によりアルファ・ウイン・キャピタル株式会社（以下、弊社）が作成したものです。

本レポートは、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。弊社は投資家の皆様の本レポートを利用したこと、又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても一切責任を負いません。最終投資判断は投資家ご自身においてなされなければならない、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家の皆様にあります。

本レポートの内容は、一般に入手可能な公開情報に基づきアナリストの取材等を経て分析し、客観性・中立性を重視した上で作成されたものです。弊社及び本レポートの作成者等の従事者が、掲載企業の有価証券を既に保有していること、あるいは今後において当該有価証券の売買を行う可能性があります。

本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。（更新された）最新のレポートは、弊社のホームページ（<http://www.awincap.com/>）にてご覧ください。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。

本レポートの著作権は弊社に帰属し、許可なく複製、転写、引用、翻訳等を行うことを禁じます。

本レポートについてのお問い合わせは、電子メール【info@awincap.jp】にてお願いいたします。但し、お問い合わせに対し、弊社及び本レポート作成者は返信等の連絡をする義務は負いません。